

第6回 JCHOりつりん病院地域協議会 議事録

開催日 平成31年3月14日(木) 15時30分～16時50分

開催場所 JCHOりつりん病院 本館3階会議室

出席者

○院外・・・虫本光徳(医師会)・横井徹(医療機関)・多田一夫(行政/保健所)・宝山秀逸(利用者/患者)

○院内・・・大森院長・大橋副院長・小西副院長(欠席)・冨木田事務長・軍神総看護師長
白井看護師長(退院調整看護師)・川畑事務長補佐(総務企画)

議事内容

1. あいさつ (院長 大森浩二)

今日は年度末のお忙しい中、第6回目の地域協議会にお集まりいただきありがとうございます。今回で6回目を迎えるわけですが、この会の趣旨は地域の先生方、住民代表の方、行政の方に病院の現状を報告して、改善すべき点などを地域医療推進の意味からご意見を賜るという会となっています。

JCHOりつりん病院となり5年目が終わる事となります。独立行政法人は5年毎に中期計画を立てることとなっていますが、その最終年度ということで、最終的な評価がどう下るか分かりませんが、機構自体はA評価ではなく、普通のB評価になったと聞いています。今度の院長会議で総まとめの話があると思いますので、次回その報告が出来たらと考えています。

2. 議長選出

病院長を議長とする。(選出根拠⇒地域協議会設置要綱の第4条)

※出席者全員了承

3. 議題

(1)前回の指摘事項とその対応について (院長 大森 浩二) 資料を基に説明

○虫本委員から、みんなの病院(高松市民病院)が新しくなりその影響がどうかという話の中で、りつりん病院も新しくして、電車とJRを利用すれば収入も上がるのではというお話をいただきました。

これに対しては色々アイデアを画策しているところで、コトデンとタイアップするとか、色々な方面でサジェスション頂いていますが、まだ公表できる段階にはありません。仰っていただいた様に、りつりん公園駅に駅前広場のように向き合う形で、患者さんの利便性を図り、患者さんだけではなく健診の受検者、健康な方もターゲットにしたいと考えています。

○多田委員から、みんなの病院(高松市民病院)は、数年前に完全禁煙にしたので、りつりん病院も思い切ってしてみてもは？という話をいただきました。色々軋轢がある事は経験をしていますので、その轍を踏まないように慎重に完全禁煙宣言をしました。

○宝山医員から、患者さんは病院を選ぶときネットを見るので WEB サイトの整備をしてはどうかとの提案をいただきました。

これに対しては、グーグルマップに写真を掲載し、売りの一つである 3 テスラの MRI 室をストリートビューが出来るように工夫をしました。それ以降も、病院からのお知らせをアップデートしています。更に充実させていきたいと思っています。

(2)患者動向・事業概況について (事務長 富木田武)

※資料に沿って報告 (平均患者数：外来、入院 診療単価：外来、入院 業務収支)

患者数、診療単価共に事業計画より低い数値となり、収支の累積は 2,815 万円の黒字ですが、計画より下回っている状況です。2 月については未だ収支は出ていませんが、診療実日数が 3 日少なく、入院外来共に患者数、診療単価が計画より少なく黒字は望めない状況です。その他医療機器の整備費用、立体駐車場の修繕等、3,000 万以上の費用が必要で、年度末を黒字でいくには、3 月に例月以上の収益を出さなければいけない状況となっています。

(大森院長)

今年度の収支の悪化については、医師の交代による影響が大きいです。

循環器の医師の 2 名減があり、また 9 月まで外科で頑張っていた医師が 10 月に転勤しまったことで相当なインパクトがありました。

(虫本委員)

入院や外来の目標単価についての周知はどのように行っていますか。

(大森院長)

運営会議という医師全員と、各部局の長が集まる会で目標値を周知し叱咤激励しています。例えば 2 月に関しては、診療実日数が 31 日と比べ 3 日少ないので、例月より 2,000 万円は何もせずにマイナスとなるので、例月以上に入院患者数を増やす等の努力をしないといけないというような話をしています。

(3)退院調整ナースの取り組みについて（看護師長 臼井美由紀）

※下記の内容について資料に沿って説明

入退院支援体制、入退院支援加算 2→加算 1（H31.4～）

退院困難患者に対する退院支援(入院時退院困難患者スクリーニング票、介護支援等連携指導書、退院支援計画書、介護支援等連携指導、退院時共同指導)

平成 30 年度入退院支援部門時実績

病院外での活動について（看護職等連携交流会）

次年度、入退院支援加算 1 を算定するにあたり、他施設との連携において、連携する医療機関や、居宅サービス事業者、地域密着型サービス事業者などの数が 20 以上。連携施設の職員と年 3 回以上の面会が必要です。ケアマネなどの連携において、過去 1 年間の介護支援等連携指導料の算定回数と相談支援専門員との連携回数も必要です。

当院での実績は、年 3 回以上連携施設は、2 月末時点で、57 施設あります。また、ケアマネ・居宅サービス事業所・他医療機関等と連携を行った回数は 415 件あります。この実績は、患者・家族に寄り添い、在宅でも引き続き医療・介護が受けられるように、多職種・他機関との顔の見える連携を図り、支援・調整を進めてきた結果だと考えています。当院は、急性期病棟から、包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟に転棟して退院支援を行う事ができます。このことは、大きな強みだと考えています。急性期の治療から、在宅まで患者・家族の意向に沿った支援ができます。今後も、他機関との顔の見える連携を図り、地域包括ケアシステムの構築に努めていきたいです。

私たちの今後の課題としては、訪問診療をして頂ける開業医の先生方が増えて、常は「かかりつけ医」で診てもらい、悪くなれば、当院に入院していただき、治療。治療が終了すれば、また「かかりつけ医」に帰れるような体制が強化できることを望みます。当院も、訪問看護ステーションがありますので、さらに、在宅医療と介護の連携の強化ができたかと考えています

(大森院長)

入退院支援をする理由は、地域包括ケアシステムの中で病院が機能を十分に発揮する事です。そこで、受け入れる時も地域にお返しする時も在宅との連携を中心に進めているところです。

(虫本委員)

入院時退院困難患者スクリーニン票は独自で作成されたものですか。

(臼井師長)

国が作成しているものです。平成 30 年の診療改定で追加された項目もあります。

(虫本委員)

介護支援等連携や退院支援計画書等も国の雛形から作ったのですか。

(臼井師長)

病院独自で作成しました。

(虫本委員)

良く出来ていますね。

また、私は専門ではありませんが、最近話題になっているACP、アドバンスケアプランニングも関係してきますね。

(多田委員)

人生会議ですね。

(大森院長)

人生会議の日を国が作りましたね。

当院でも地域包括ケア病棟1の施設基準を算定しようとした時に、人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインを元に、マニュアルを作成する必要がありました。

その中に、入院してきた際に患者さん、家族に、急変時の事、栄養のこととか、蘇生の事、延命のことを確認するというものがあります。

入院時にそういう質問をされる事に、患者さん家族はびっくりしますね。

なので、厚生省にもう少し国民に啓蒙してからにしてほしかったという声があったのでそういう日を作ったと思います。

在宅の会に参加した際にと思いますが、患者さんを在宅に送っても看取りをしてくれないので、結局帰ってきて病院で亡くなる事が多いように感じています。

(虫本委員)

家族の希望もあるのだと思いますね。

(大橋副院長)

老老介護で高齢者2人で受け入れた場合、どこまで支えられるかと考えると社会的な問題もあるかもしれませんね。

(大森院長)

サ高住での医療、介護、看取りの場としてどのくらい機能しているか知りたいですね。

(虫本委員)

現場でいると、本人の希望や、家族の希望など色々あり難しい問題です。

やはりもっと啓発が必要だと感じます。

(横井委員)

個人的な意見になりますが、日本の今の現状では在宅での看取りはなかなか難しいと感じています。しかしACP等の活動をしなければ、在宅死を望んでも無理だと思いますので、わずかでも割合が増えることにつながると思います。

(宝山委員)

私はエンディングノートも書いていますし、延命治療はいらない等の意思表示はしています。私の父の場合は、担当の医師の考えで在宅死となりました。

私の場合は、老老介護でもありますので、在宅死は難しいと考えています。

(大森院長)

全国的な大きな課題ですね。

(4)その他

○病院の環境整備に係る取り組み(院長 大森浩二)

- ・敷地内完全禁煙の実施について

※資料に沿って説明

平成 30 年 12 月 28 日 喫煙所閉鎖し完全禁煙

- ・駐輪場について

病院関係者以外の利用禁止の注意喚起

- ・院内の安全保障について

警察 OB の採用

○院内インフルエンザ発生状況及び対応について(院長 大森浩二)

※資料に沿って説明

- ・面会の制限、禁止について

面会者、家族への周知方法（張り紙等）

- ・インフルエンザ対応についてのアンケート

今後のルール作りに活用

○電子カルテ更新について(院長 大森浩二)

※資料に沿って説明

2019 年 11 月システム本稼動予定

○ゴールデンウィーク期間中の診療体制について(院長 大森浩二)

2019 年 4 月 29 日(月)、30 日(火) 病院フルオープン

○委員の人事異動について（事務長 富木田武）

大橋副院長 H31.3.31 JCHO の勤務延長期限到来

H31.4.1 院内採用

軍神総看護師長 H31.4.1 下関医療センターに異動

後任 H31.4.1 玉造病院から美濃看護部長が赴任

4. 閉会のあいさつ（院長 大森浩二、副院長 大橋洋三）

（大森院長）

皆さんにお教えいただいた事、ご提案いただいた事を今後の病院の運営に生かしていきたいと思います。

（大橋副院長）

色々な意見が聞けて、理想的な姿がどうであるかを客観的にご指導いただけると改めて努力していこうと感じています。

今後とも色々なご意見をいただき、みんなが幸せになるようになればと思っていますのでよろしくお願いいたします。

今日はどうもありがとうございました。

連絡事項（事務長 富木田武）

次回の開催予定についてですが、2019年9月に予定をしております。期日が近づきましたらご連絡をいたしますので、ご出席の程よろしくお願いいたします。